

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 5F		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成27年 1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部の病院建物4階、5階を利用して作られたグループホーム愛生は、1階に外山内科があり、利用者様の体調管理を、3階にある訪問看護ステーションと連携し行っている。また急変時の対応が速やかに行われるために、ご本人様やご家族様にも安心していただいている。施設内においては、季節を肌で感じていただけるようにバスハイクを行ったり、健康体操・嚥下体操・歌など毎日行い健康に努めている。また、認知症の進行予防にくもんの学習療法を取り入れ利用者様とのコミュニケーションを深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は5階にあり、視界を遮るものがないためとても明るく、日当たりも良く、しかも遠くの山々まではっきり見渡すことができます。そういった恵まれた環境の中で利用者は生活を送っております。1階には事業主体である外山内科があり、3階には訪問看護ステーションもあります。夜間や緊急時の対応が迅速で、医療機関との連携もスムーズで、本人や家族の安心につながっていると思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、4階・5階合同で朝礼を行う前に理念の復唱を行っている。復唱することで、再確認を行い、それを現場に活かす様に努めている。	事業所は、サービスを行うにあたっての基本理念として、尊厳・自立支援・共生を掲げている。毎日の朝礼前に理念の唱和を行い、共有に努めている。また、理念に基づく事業計画を作成しており、鋭意・実践に向けた取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内祭りの参加、ボランティア体験教室の受け入れを行い交流を図ったり、合同レクリエーションでは、歌や踊り、メイクアップ教室、華道、人吉別院よる法話を聞くなどボランティアの方々に来て頂いている。買い物も入居者様と一緒に近くのお店に出かけたり、近くの理美容室へ出かけている。また冬の時期になると落ち葉が落ちるために地域の掃除を行っている。	現在のところ、事業所自体が自治会に入会したり、地域の一員としての活動はないが出来るところからはじめようということで、ボランティア体験教室に高校生を受け入れたり、寒い時期には自主的に落ち葉の清掃を行っている。また、各方面からボランティアの受け入れを行っており、利用者との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で介護の相談等あれば相談に応じている。また、利用者家族・入居希望者などの介護の相談などにも対応している。また、ボランティア体験教室の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの利用者様の状態報告や行事報告を行い、町内の方・市の担当者の方から改善などの意見があれば、それを現場に活かせるように努力している。町内会からは町内のイベントなども報告され、クリスマス会などを行い、地域の方との親睦を深めている。	会議は、偶数月の第3水曜日に行われており、外部からのメンバーは町内会長、民生委員、市の担当者となっている。利用者の家族にも案内しているが、なかなか時間が合わないことが多いようである。内容は、利用者の状況や事業所の行事及び取り組みなどについて報告し、意見や助言をもらっている。また、町内のイベントについても報告がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当者からインフルエンザやノロウイルス等の感染情報や介護保険情報等を得たり、また、利用者様の介護更新手続き等で市役所へ行った時、色々と問題があれば、相談をしている。	運営推進会議には、市の担当者も出席している。利用者の介護保険更新手続きなどでは、市役所に出向くこともあり、質問や問題などがあれば、その際相談している。市の担当者も気持ちよく対応してもらっている。	

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、マニュアルを誰でも閲覧できるようにしている。研修会も行い職員全員に学習する機会を設けている。朝礼・終礼時には定期的に申し送りを行って常に職員が意識するように心掛けている。大声・不穏・徘徊などある入居者様には、見守りや寄り添い声掛けを行い落ち着いて頂く様に対応している。	事業所では、マニュアルを備え付けており、疑問に思った時はいつでも誰でも閲覧できるようにしている。また年に1回は研修会を行っており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。管理者の話では、疑問点が出てくれば身体拘束委員会に図り、行動を一緒にすることで拘束のない支援に努めているとの事であった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても、身体拘束同様にマニュアルの閲覧・研修会での学習する機会などを設け実践している。常に職員が意識するように朝礼・終礼時には定期的に申し送りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護も成年後見制度も利用者様が実際にご利用されているので、制度に関し理解をし、取り組んでいる。又、県が主催する権利擁護の研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時から本人様・ご家族様に施設について介護方法等について疑問点などを説明を行い不安なく契約できるように取り組み契約時にも再度、十分な説明を行い本人様や家族様が理解・納得していただいた後に契約を行っている。また、介護保険が改正されて利用料等に変更があった場合にも、説明を行い、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などあれば、運営推進会議でも報告し、それらを運営に反映するようになっているが、現状は来訪時・サービス担当者会議等で意見や要望を聞く機会はあるが運営に関しての意見や要望は聞かれていない。	来訪時やサービス担当者会議を通じて、家族とのコミュニケーションづくりを行っている。来訪時にはお茶を出すようにしており、世間話をしながら家族との関係づくりに取り組んでいる。また、第三者苦情処理機関のポスターも掲示している。	家族からは、お世話になっている関係上、中々本音は言いにくいと思います。今後共、なんでも言い易い環境づくりに取り組んで欲しいと思います。

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開き運営について意見等を聞いている。また、朝礼・終礼時の申し送りや、日々の業務の中でも相談があれば聞くようにしているし、改善すべき点は、話し合った上で改善し、取り組んでいる。	毎月の職員会議では、意見を聞く機会を設けている。また朝礼や終礼時、その他必要に応じて相談を受ける体制を整えている。職員からは「意見が言いにくいという雰囲気はなく、要望は聞いてくれます。」という話であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、福利厚生、など職員が働きやすいように努めていただいている。又、希望休の要望に出来るだけ応えて調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を回覧板・申し送りノートを活用して紹介している。又、必要に応じて個別に参加を促すこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、他の施設のスタッフなどと意見交換をする事により、自分の施設の見直しなど行い、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様の声に耳を傾け、表情・会話等の中からも本人様の思いを汲み取ることが出来るようにコミュニケーション作りを行い安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や、契約時においても、出来る限り多くの時間を使いご家族様からの情報や要望等を聞き、少しでも対応できるように努め本人様の些細な変化でもご家族様に連絡を行い情報交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様が不安に思う事・必要としている事を汲み取り最も本人様に良い方法を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の残存能力を見極め、出来ることはお願いしている(洗濯物たたみや台拭き等)。また身体介助もすべて介助は行わず、出来る所はしていただいている。		

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やオムツの購入、家族様に出来ることは依頼をしている。また、利用者様の相談も必ずご家族の意向を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への来訪はいつでも受け付けている。最近も友人・近所の方が入居様を訪ねて来られました。また、馴染みの場所は、青井神社で、初詣には全員出かけている。	7名ほどの利用者が、現在も近所の美容室を利用しておられる。事業所としては、関係継続を支援しており、都合がつけば出来るだけ面会に来て欲しいと言っている。中には、毎週面会に来られる家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大声や手たたき、台たたきなど不穏のある方がおられるが、その時は他の入居者様より責められるために、寄り添い声掛けにて対応している。また他の入居者様にも状況を説明し理解して頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するときは、ほとんど死亡退居の場合が多いが、退去されたご家族様で近くに理容店を経営されている為、定期的に利用させて頂く。又、クリスマス会への参加・生け花のボランティア・家で作られた米を持ってこられたり、飴やずず虫を届けに来て頂くご家族様もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・ご家族様から思いや要望に耳を傾け一人ひとりの意向の把握に努めている。又、意思疎通がむずかしい入居者様には生活歴などを参考に、ご家族様・職員と話しを行い本人様にとってより良い生活が出来る環境作りに努めている。	意思疎通が難しい利用者の場合、家族の情報や生活歴、また日々のケアの中で気づいたことなどを参考に、本人にとってよりよい生活ができるように支援している。「レクリエーションなどを行う中で、利用者の好みなどを確認し、次からのケアに生かす様にしている」という話も職員から聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様より得られることは、少ないように思われる。家族様からの情報が主であるが、生活歴などは、利用者様と話をするときの「話題」に役立っている。		

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせ、ゆとりある時間を作るように心掛けている。又、毎日のバイタル測定・身体観察。常に観察を行い小さな変化も見逃さないように全員で情報の共有を行い朝礼・終礼時には申し送りを行っている。変化があれば訪問看護へ連絡を入れ指示を仰ぐ。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議では、本人・家族・関係機関・計画担当者・介護職員等が参加し、それぞれ意見や希望など反映した計画を作成している。	家族が遠方にいる利用者はわずかで、その他の家族は担当者会議に参加している。必要に応じて、訪問看護師や栄養士などにも参加を依頼しており、それぞれの希望や意見などを反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりに担当者を割り当て担当者を中心に管理者・計画作成者・介護職員で日々の支援についての話し合いを行い実践している。又、ケース記録や申し送りを利用し情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冬には乾燥肌になるためにクリームを塗布したり、排便がない人には運動・マモリス・腹部マッサージしたり、その時その時の状態に合わせて対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや施設全体での夏祭り・文化祭などに参加したり、ボランティアの方々に施設に来ていただき、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に関しては、本人様が入居前にかかっておられた医療機関との連携を行いつつながら支援する様になっているが、現状は同法人の医療機関へ変更をされている。ただ、眼科や歯科等専門医院の受診については、できるだけ家族に対応を依頼している。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。ただ現在では、全利用者が同法人の医療機関をかかりつけ医としている。事業所のすぐ下の階に訪問看護ステーションがあり、緊急時や夜間の対応が迅速で病院との連携もスムーズなことが、家族の安心につながっているようである。	

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状態に変化がある時は訪問看護へ連絡を入れ訪問して頂いたり、電話での指示で対応している。また、週1回の訪問では、入居者様の全員の状態を見ていただいて、毎日訪問看護ノートへ一日の様子を記録して訪問看護へ提出し、情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎週1回の入退院調整会議にて病院との情報交換を行ったり、病棟のソーシャルワーカーと連絡を密にし入院した場合の入居者様の状態把握に努めている。また、外来看護師や病棟看護師とも連携を密にし情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ドクターの方より家族へ病状の説明や今後についての話し合いが、介護スタッフも含め行われている。それに基づき計画の見直しを行い、入居者様が一番良い状態で過ごしていただけるように支援している。	重度化した場合、病状の説明やその後の対応等についてドクターより説明があるようである。また事業所としても同意書を取り交わし、家族との意思疎通を図っている。看取り支援については、まだその準備もできておらず現段階は難しいとの判断である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、施設内外の研修に参加すると共に、フローチャートを作成し、日々確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間はどうしても限られたスタッフで全員を見なければならず、対応が困難。夜勤に入る時に、火災のシュミレーションを行い、放送設備や通報設備の訓練を行っている。	訓練は、同法人の別事業所と合同で行われている。事業所には、火災通報装置、館内放送、複合火災受信機などの防火設備が設置されており、夜勤入りの職員は火災のシュミレーションを行い、取り扱い訓練を行っている。	4階同様、非常時の行動については困難な状況が予想されます。日頃から防災意識の向上と、どうすれば安全に避難することが出来るかを話し合う機会を持って欲しいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに対しては、朝礼・終礼時・申し送りノートで常に注意を促し職員の意識が薄れない様に気をつけている。トイレや入浴時などもドアを閉める・バスタオルをかけるなどプライバシーを確保できるように指導し取り組んでいる。	年に1回は接遇の研修会を行っており、特に言葉遣いに関しては、日ごろから朝礼や終礼、また申し送りを通じて意識付けを行っている。管理者は「その人の生活や価値観を知って支援すること」と、職員からは「自分が嫌なことは利用者にもしないことが人格の尊厳につながると思う。」と話していた。	

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動・トイレ・入浴など必ず本人様に声掛けし同意を得てから行動に移している。意思疎通がむずかしい方でも必ず声掛けを行い行動に移している。訴えがある時は、側に寄り添い話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にする事に心掛けているが、スタッフの人数を考えると毎日、一人ひとりのペースを支援するのは、厳しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びてきた時は、美美容室へ行ったり、施設内においては、出来るだけ同じ服にならない様に心がけている。また毎週、整容日を設け爪切りや耳かき等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、介助する方が多くなり食事の準備は全く入居者様とは行っておらず、手伝っていただくのは、台拭きくらいである。	献立は管理栄養士が作成しており、栄養のバランスは考えたものとなっている。現在、介助が必要な方は1名で、きざみやミキサー、とろみづけなど個別に対応している。盛り付けもワンプレートの方が2名おられる。食事の前には嚥下体操を取り入れ、食事が進むよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、管理栄養士のもとで、メニューを作成し、提供している。水分量については、毎食後とおやつ時にチェックシートにて管理し、少ないようであれば飲んで頂くように促している。また、管理栄養士と常に情報を共有し栄養補助食品の提供や糖尿病や腎不全などの病気の状態に合わせて調理の内容も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っていて、夕食後は、洗った後、洗浄剤を入れて洗浄している。口腔ケアは、ご自分で出来る人には、お願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、また訴え等あれば随時対応を行っている。全介助の利用者様もトイレへ誘導を行い二人対応にて介助を行っている。	排泄記録をもとに定期的にトイレへの誘導を行っている。大半の利用者に訴えがあり、トイレでの排泄を支援している。その他、定期的な誘導については利用者一人一人の時間があるようで、それに添った支援を行っている。不穏がサインの方もおられる。	

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量チェック・運動やマモリスなど本人様に出来る内容を訪問看護・職員と話し合い行っている。また、トイレに行く前は腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は入居者様のADLが低下し、入浴もスタッフ1人では、対応が困難になり、時間や曜日を決めての入浴となる。その中で、入浴時はゆっくりとお湯につかって頂ける様あまり急かせない様に気を付けている。	入浴の回数は、週に3回以上となっている。転倒に注意し、自分で出来るところはなるべくしてもらい様に支援している。お湯の温度やシャワーの温度に注意し、ゆっくりお湯につかってもらい様取り組んでいる。ゆずやしょうぶなどの季節を感じる支援は行っているが、入浴剤の使用はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、車椅子での座位保持が長時間困難な人の場合、居室にて休んでいただいている。またその他の入居者様には、足を拳上し、ゆっくりした感じで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、利用者様の状態により、処方かわるので、前回とのチェックを行い、薬の変更がある場合は、服薬チェックリストへの追加・変更を行い、また服薬時は間違えがないように、二人のスタッフが確認をして服薬を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・清掃・近所への外出・レクリエーション・誕生会・華道・法話・メイクアップなどの提供、おやつのお茶の他にも、紅茶やココア、ジュースなどの提供を行い、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じれるよう近所の散歩へ出かけた、定期的にドライブも行っている。また、散髪や買い物等あれば一緒に出掛けていて、入居者様も大変喜ばれている。	気候も良く天気の良い日には、季節感を肌で感じてもらえるように近くの神社や球磨川河川敷公園まで散歩に出かけている。その他に、桜の時期には写真を撮ったり、城内の祭りに出かけたり、人吉駅を見物に行った帰りにアイスクリームを食べたりなど支援しており、とても喜ばれているとのことであった。外食が好きな利用者もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金の管理が出来ない為、施設管理となっている。散歩・祭りの時、預かり金を1,000円程度、付き添いの職員へ預け欲しい物を購入して頂いている。		

グループホーム 愛生 5F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は引継ぎをしているが、話すことが出来ない方もおられる為、毎月お便りを家族様に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ということでは、その時期にあった飾り付けを行っている。又、お花の先生に来ていただき(月1回程度)生け花を行い、その後は玄関等に飾らせていただいている。	事業所は5階にあり、利用者が集わるリビングはとても明るく、日光が差し込み、寒さは全く感じる事はなく、穏やかな空間となっている。利用者の表情も穏やかで、風邪などひかないように注意し、加湿器を置き湿度の管理も行っている。また窓からは遠くの山々が一望でき、なじみの深い人吉城跡も見ることが出来る。またメダカを飼っており、餌をやることを楽しみにされている利用者がおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では仲良く話などされています。又、1人になりたいときは、居室へ行かれて過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今までの環境の雰囲気でも過ごせる様に、入居時に本人様にとって馴染みの物を持ってきて頂けるように本人様・ご家族様に話しをしている。但し、安全面を確保出来ない場合は、家具など置かないケースがよい時もある。	居室の基本的な設備は、ベッド、空調機器、物入れとなっている。管理者は、できるだけ今までの環境を変えず落ち着いた暮らしが出来るよう、なじみのものを持って来てもらうよう話をしている。元気だったころの写真や家族写真を飾っておられる方が多いとのことである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて、歩きやすいようにしている。又トイレ等場所が分かるように案内表示を付けている。		